

感動一点の場

『鳩と壺』

1995 年 小川原 脩 画

花、小鳥、モーツァルト― 会葬の際に手渡された礼状には、故人が愛したものが綴られていた。可憐で愛らしく、生命力にあふれたそれらを、静かな視線で眺め耳を傾ける姿が目につく。伊達在住の画家・野本 醇 氏。享年 88 歳。60 年前、倶知安の地でともに絵画を志す仲間と麓彩会を立ち上げた。またひとり、小川原脩をよく知る人物が天に召され、小川原を語る言葉を聞く機会が失われてゆくことが口惜しい。最近に取り組んでいたという野本氏の淡彩画を拝見した時、小川原晩年の仕事と重なってゆくようにも感じた。

この作品もまた、小川原が 1986 年のインド旅行以降、熱心に描いた鳥と壺が描かれている。数多く手掛けたその組み合わせの中で、珍しいのは、カラスではなくハトの群れだということだ。倶知安ではハトの群れを見かけない。小川原は札幌の街へ出かけてその姿を観察し「ハトはいいね」と語ったという。穏やかな言葉が、平和な群れの様子に現れている。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）



ふる探訪

430 回

―鳥の巣のような寄生植物―

冬になると、葉を落とした木々の枝にボール状の、鳥の巣のようなものが付いているのを見かけたことはないでしょうか。これはヤドリギといい、自ら光合成しつつも他の木に寄生して、栄養や水分をかすめ取って暮らしている寄生植物なのです（半寄生）。

体のつくりは寄生に特化していて、クサビ型の根は宿主にしっかり食い込んで離れません。実にも工夫が凝らされていて、冬に実る実は赤や黄、橙色でよく目立ち、鳥に食べられフンとして排せつされることで遠くに運ばれます。さらに、果肉はガムのような粘り気をもって、タネが鳥の体内を通過しやすくなる上に、木にもくっつきやすくなっているという徹底ぶりです。この粘り気はかなり強く、かつて駄菓子屋などではヤドリギなどの植物の粘液から作られた「トリモチ」が売られていて、小鳥や昆虫を捕まえるのに使われました。実を食べたことがあります、なかなか甘味があって鳥も好きであろう事うけあいでした。しかし、その後が大変で、粘る果肉が口にはりつき、吐き出すのにも一苦労。あまり食べない方が良さそうです。

多くの生き物たちが息をひそめてしまった雪の世界で、生き活きと緑色の葉を輝かせ続けるヤドリギ。昔から多くの人々がヤドリギに強い生命力を感じていたようで、万葉集に長寿を司る植物「ほよ」の名前で登場したり、アイヌの人々は土地を肥やすために使ったりしたそうです。私も口の中で、ヤドリギの生命の粘り強さを感じました。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



▲ナナカマドから生える若いヤドリギ（倶知安風土館）

展覧会のお知らせ

■常設展示

小川原脩展 「小川原脩 遙かなるイマージュⅢ」

画家・小川原脩が一生をかけて追い求めた「遙かなるイマージュ」の世界。アジアの清澄な空間を描き出す、小川原脩晩年の代表的作品を中心に紹介します。

会 期：開催中～4月14日(日)

■企画展示

「くっちゃん ART 2019」

今年で 11 回目を迎える「くっちゃん ART」は、倶知安町はもとよりニセコ・羊蹄山麓周辺で芸術活動に身を置く作家、さらにはそれらの作家と交流のある海外在住の作家が多様な表現による多彩な作品を持ち寄り、さらなる交流を深める、この地域ならではの国際性を反映したユニークな展覧会です。小さな美術館で、多くの作家が集う、賑やかな展覧会を開催します。

会 期：2月2日(土)～4月14日(日) ※初日は観覧無料



アート・イベントのお知らせ

■アーティスト・トーク

「くっちゃん ART ～ワンポイント・トーク」

11 回目を迎える「くっちゃん ART」、今回も多彩な作品が勢ぞろい。オープン初日に集まる出品作家の皆さんが、作品の背景や技法、メッセージなどを話します。

日 時：2月2日(土) 10時30分～12時

お話し：出品作家の皆さん 会 場：当館第2展示室（無料）

■アート・シネマ館

「セラフィヌの庭」2008 年／フランス・ベルギー（字幕）

ある女性画家の半生を描いた人間ドラマ。家政婦として生計を立てながら、草木や花々に話しかけては黙々と絵を描いていたセラフィヌですが、ある日、ドイツ人画商と出会い…

日 時：2月9日(土) 14時30分～16時10分

お話し：沼田絵美（当館学芸員） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■土曜サロン

アート探訪くみて・きいて>26「ムンク～叫びに込めたメッセージ」

ムンクと言えば「叫び」。どのようにしてあの独特の構図が生まれたのか、そこにはどんな思いが込められているのか。北欧の地を旅しながら、ムンクの生い立ちを探ることから始めましょう。

日 時：2月16日(土) 14時～15時 お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

アート探訪くみて・きいて>27「みんなのアムステルダム国立美術館へ」

オランダの首都アムステルダムにある国内最大の美術館。レンブラントやフェルメールなど世界に誇る至宝を所蔵しています。その美術館が何故、10 年間も閉められていたのでしょうか。

日 時：2月23日(土) 14時～15時30分 お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観 覧 料：一 般 500 円（400 円）
高 校 生 300 円（200 円）
小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観 覧 料：一 般 200 円（100 円）
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

2 月の休館日 毎週火曜日

1 日 臨時休館

江戸東京博物館

高床式の倉をイメージした江戸東京博物館。国技館と並んで総武線両国駅のすぐ目の前にあります。お正月は無料ということもあり、会場には溢れんばかりのお客さん。しかもその多くは海外からの観光客で、日本の伝統文化へ熱い眼差しを注いでいます。ただ、丁寧な解説パネルは日本語のみ。どこまで理解されているのか、心配になります。多言語に対応できるボランティアガイドや音声ガイドが用意されているとはいえ、やはり、展示の上で工夫が必要ではないかと、わが美術館のあり様に思いをはせるのでした。

館 長 柴 勤